

温暖化防止ながれやま便り

第56号 2025年6月

NPO 温暖化防止ながれやま

代表 増永 弘

流山市西平井2-16-7

編集 筒井 義憲

(総会挨拶)地球の明日のため、流山からアクションを！

代表 増永 弘 (総会挨拶)



令和7年度 OBN総会にご参加ありがとうございます。

昨年は、何年振りかのセントラルパークフェスタで「手回し発電機の電車走行」を行い、第200回学習会記念ビック対談会の開催では、当時経産大臣の齋藤健氏、気候政策シンクタンクの平田仁子氏をお招きし、元気ネットの鬼沢先生にお手伝いを頂き「気候変動対策」対談会を行いました。対談の様子はNHKの取材を受け、翌朝「脱炭素社会への動き」と題してニュース放送されました。

また、市民環境講座「脱炭素ワークショップ開催」ではローカル紙「朝日レスカ」に内容が一面掲載となりました。これらは今までにない形の「地球温暖化対策」啓発活動になったものと確信します。

近隣の推進員さんには勿論ですが、会員からも独自に講演依頼・相談・折衝等に尽力いただき、諸々のイベントができています。これからも皆さんの持っている「お力を放出」して頂けるようお願いを致します。

令和7年度総会内容

令和7年度の総会を4月24日に生涯学習センターにおいて開催し、令和6年度の活動報告、令和7年度の活動計画等が承認されました。

＜令和6年度活動内容＞ 市民環境講座（総参加者数：318名）

	日程	場所	参加数	内容
第1回	6月8日(土)	生涯学習センター (多目的ホール) 増永・大塚	14組 17名	『LEDランタン工作』 ー太陽光で発電した電気をためて夜間にLED照明に使うー
第2回	8月18日 (日)	生涯学習センター (多目的ホール) 笠原・横田	18組 37名	『太陽のエネルギーを実感しよう！』 親子でミニソーラーカーを作って走らせ、太陽光のエネルギーを実感した

第3回	12月15日 (日)	生涯学習センター (C401 会議室) 横田・難波	6名	「ながれやま脱炭素未来ワークショップ」千葉大倉阪先生から講義を受けた後、中学生・高校生同士で流山市の2050年の課題解決の方策を話し合った
第4回	2月16日 (日)	流山市文化会館 (ホール) 筒井・吉永	91組 258名	らんま先生の『環境エコ・パフォーマンスショー』—環境保全の大切さを伝える—

イベント事業

日程	イベント名	場所	主催者	内容
6月2日 (日)	セントラルパーク フェスタ	生涯学習センター	生涯学習センター	手回し発電の電車 家庭の省エネ診断等

暮らしのSDG s 学習会

暮らしのSDG s 学習会を12回(毎月)開催しました。12月は我孫子電力中央研究所を見学しました。

その他

- ・定例会議は1月を休会し、11回の開催となりました。
- ・会報誌は予定通り4回発行しました。
- ・10月20日に、『エコメッセ 2024 IN ちば』が開催され、都合が悪く参加出来ませんでした。
- ・3月15日に、『ふるまぎ里山ミュージアムを実現させる会』の発足集会に出席し賛同団体となりました。

<令和7年度活動計画>

市民環境講座

流山市からの受託事業として開催します。

	日程	場所/担当	目標数	内容
第1回	2025/7/13 (日)	生涯学習センター 責任者 大塚・小川	20組	LEDランタン工作 ミニ講座
第2回	2025/8/11 (月・祝日)	生涯学習センター 責任者 横田・小川	20組	ソーラーカー組立工作 ミニ講座
第3回	2025/11/9 (日)	生涯学習センター 責任者 横田・難波・前崎	20人	未来ワークショップ 千葉大学倉阪先生
第4回	2026/3/21 (土)	文化会館 責任者 吉永・筒井	400人	「エコパフォーマンスショー」 らんま先生

イベント事業

日程	イベント	場所	主催者	内容
2025年 6月8日(日)	セントラルパーク フェスタ	生涯学習センター	生涯学習センター	手回し発電の電車 家庭の省エネ診断等

セントラルパークフェスタ 2025 に参加しました

令和7年6月8日(日)生涯学習センター・流山エルズで「セントラルパークフェスタ 2025」が開催されました。



フェスタには 20 の市民活動団体による展示、動物園の飼育員によるまちの動物園えさやり体験・キックバイク、オフロード競争・ワークショップの発表などがありました。

去年はコロナの影響と、雨天が重なり、思うような入場者が集まりませんでした。今年は晴天に恵まれ、5024 人の入場者で私達のブースにも 605 人が来場し、大変な賑わいを見せました。



温暖化防止ながれやまは(SDGs を知り、地球規模で直面する社会・経済・環境の問題を解決するため、どのように取り組むか?) をコンセプトとして参加いたしました。

また、ポスター展示(SDGs について、リチウム電池、再生可能エネルギー)に加えてミニ講座の映像を上映しました。昨年に続き、手回し発電を使ったジオラマ電車が好評で、子供達が頑張って発電機を回していました。



更に今年は「木のおもちゃプロジェクトの会」との共催が実現し、松ぼっくりの釣り体験、木のゲームに子供が集まっていました。

来場者におみやげとして配った流山市から委託を受けたゴーヤクラブから提供されたゴーヤの種を、視察に訪れた井崎流山市長が関心して見ておられました。



暮らしのSDGs 学習会

第 209 回 暮らしのSDGs 学習会

京葉ガス(株)柏ビル 総合指令室見学

案内 京和ガス(株)常務取締役 山田慎也氏

第 209 回学習会は、京葉ガス(株)の災害発生時の都市ガスの安定供給と保安の確保の取組みの見学で、同社 柏ビル 総合指令室を見学しました。

日時は 2025 年 4 月 11 日 (金) 14:00 ~ 15:30 で、案内は京和ガス(株)常務取締役山田慎也氏にお願いしました。

初めに、京葉ガス(株)供給保安部マネージャー向志郎氏による京葉ガス(株)の現状、柏ビルの概要説明があり、その後に、各ご担当から緊急保安関係と供給指令関係の説明がありました。

京葉ガス(株)は都市ガス供給を主な事業としており、浦安市から柏市、流山市など 100 万件近いお客様に都市ガスを供給し、ガス導管は、約 6,600Km となっているとのことでした。

また、柏ビルには、ガス漏れ等の緊急保安対応とガスの需要想定からガス受入量の供給指令を行うガスの供給管理を『総合指令室』として集約されたとのことでした。



＜会議室内で説明を受ける様子＞

説明終了後に、総合指令室全体を見学し、更に建物が免震構造になっているので、地下にある施設と屋上にある自家発電機等の施設を見学しました。



＜総合指令室内の様子＞

緊急保安に関しては、総合指令室に 3 名（保安責任者、通信担当者、受付担当者）がおり、出動班は 2 名体制で 5 班が分散して待機、2023 年実績では、入電が 16,289 件、出動が 7,627 件だったとのことでした。

ガスの供給管理に関しては、日々の需要想定に対して、ガスの受け入れ量をどうするかを常に監視して安定供給に努めているそうです。

また、ガスの需要量は、冬場は 320 万 m³/日、夏場は 120 万 m³/日と大きく変化するそうです。

＊ 質問としては、ガス管の耐用年数、千葉県産の天然ガスの受入方法、流山の都市ガス事業の創立についてなどがあり、それぞれ答えて頂きました。



＜向氏に入って頂き、記念撮影＞

第210回 暮らしのSDG s 学習会
持続可能な社会へ向けて
(世界がもし100人の村だったら)

2025年5月9日(金)生涯学習センター
3階 大会議室において、『**持続可能な社会に
向けて**』をテーマに『世界がもし100人の村
だったら：ダグラス・スミス著』について解
説を行って頂きました。なお、講師は、横田
輝雄氏(温暖化防止ながれやま 副代表、温
暖化防止活動推進員)にお願いしました。

内容は、以下のようなものでした。

最初に、『世界がもし100人の村だったら：
ダグラス・スミス著』は、SDG s が国連で採択
される随分前に書かれた本ですが、世界の
人々を100人の村に例えて、貧富の差や、
人々が生活する環境等の差について分かり易
く表現し、世界の人々が平和に、かつ平等に
生活できるようにすべきと説いていると前置
きの説明がありました。

＜以下がその後の説明概要＞

- * 日本の森林率は67%で、世界で2番目、
海に囲まれて自然に恵まれています。
- * 日本の就学率は世界の中で非常に高く、
質の高い教育を受けています。
- * しかし、日本の労働時間は世界一長く、
農業、漁業、林業に従事する人の割合は、
非常に低いです。



- * 世界の人口は約78億人、100人の村に
例えると以下のような状況になります。
女性52人 男性48人、有色人70人
白人30人、アジア人61人 その他39人

キリスト教信者33人 イスラム教信者19
人、以下様々な宗教があります。

都市に住む人は53人 農村に住む人は
43人、米を主食にする人が50人 麦が
26人ですが、100人のうち20人は飢えて
いますし、33人はビタミンやミネラル不
足です。一方で、15人は太り過ぎです。

水や排水について考えると、料理に使
う綺麗な水がない人が16人、飲める水が
ない人が17人、台所の排水がない人が40
人です。また、炊事をするのに、61人は
ガス・電気・灯油を使い、37人は薪を使
います。すべての富のうち6人が59%、
74人が39%、20人が残りのわずか2%を
分け合っている。エネルギーも、
20人が80%、80人が20%を使っていま
す。



以上のように世界の人々は不平等な環境
にいます。誰もが平等な環境で生きていけ
るようにするべきと本は語っています。

その後、『さがしてみよう暮らしの中
のSDG s』ということで、家でできるこ
と、外出先でできること、買い物ででき
ること等の説明があり、私たちが如何に恵
まれているかを考え、自分に何ができるかを
考え行動しようとの話がありました。

第211回 ふるまぎ里山ミュージアム構想～流山の里山を守る～ について

講師 檜（かし）聡（あきら）氏

（ふるまぎ里山ミュージアムを実現する会共同代表）

2025年6月13日（金）13:30～15:00に、流山生涯学習センター3階の大会議室において、ふるまぎ里山ミュージアム構想～流山の里山を守る～と題して、檜（かし）聡（あきら）氏（ふるまぎ里山ミュージアムを実現する会共同代表）を招いて、講演を開催しました。聴講者は外部の方を含めて15名でした。



講演の内容は以下の通りでした。

実現する会は、2025年3月15日に発足総会を開催し発足し、賛同会員数約270人、賛同団体約40団体からなる市民活動団体です。流山市では、『都心から一番近い森のまち』をキャッチフレーズにして、つくばエクスプレスの開通と相俟って、沿線開発の区画整理（5か所、計画総面積627ha、計画総人口61,000人）が行われており、更に北部では新川耕地に大規模な物流センターが建設されております。そのために、流山市に多くあった森林や里山が減り、最後に残ったのは古間木を中心とした一帯のみとなりました。

古間木---流山市に残された最後の里山



里山は、雑木林、草原、小川、ため池、田んぼ、畑などから構成されて、多様な生き物の棲家になっています。古間木地区には、野鳥・カエル・トンボ等が数多く見られ、特にサシバ（野鳥：タカ目タカ科）やニホンアカガエルは、絶滅が危惧されている貴重な存在です。

里山は多様な生き物の棲家

・水田、小川、ため池： 湿地環境



流山市は、みどりの基本計画、生物多様性ながれやま戦略などを策定し、利根運河地区・新川耕地地区・市野谷地区・宮園地区・古間木地区の緑の保護に努めていますが、十分とは言えない状況もあります。

実現する会は、該当地区でもまだ都市化がされていない古間木地区の里山としての環境を保存するために、『ふるまぎ里山ミュージアム構想』をまとめ、

- ① 水田耕作の保全と回復
- ② 湧水と湿地の保全と回復
- ③ 雑木林の維持・保全
- ④ 里山の生き物の調査・保全活動
- ⑤ 関連部署を横断的に統括するプロジェクト・チームの立ち上げ

⑥ 環境省の「自然共生サイト」の認定の6項目を掲げ、

アクションプラン

～里山を子供たちに残すために～

をキャッチフレーズに、多くの方々の賛同を頂いて活動を始めました。